

異母語話者同士の会話における異言語学習への影響 —日本人韓国語学習者と韓国人日本語学習者の場合—

黒川紘貴（目白大学外国語学部韓国語学科4年）

1. はじめに

この活動をはじめたきっかけは、第二外国語を勉強している人で母語は違うがお互いの学習言語が母語である人同士（例：韓国語を学習する日本語母語話者と日本語を学習する韓国語母語話者）であれば会話方法を一つの言語に限定する必要がなく、より自由な会話方法を選択でき、そこから会話の円滑性と言語能力向上が望めるのではないかという筆者の仮定から始まった。具体的に筆者が考える母語同士での会話のメリットは、聞き手にとって相手が話す言語が学習言語であることによって聴解の能力を鍛えつつ、実際にネイティブの自然な言い回しに慣れる、つまり語彙力の向上もできること、そして母語で発話することで自分の発話に自信が持てないといったことが学習言語で発話するときよりも減少することであると考えられた。

以上のことを踏まえ、今回は言語の文法や語順などが類似している言語間であれば学習者同士の比較もしやすいと考え、日本語と韓国語の母語話者でありお互いの言語の学習者である人を対象にした。ここでは日本語教育に関しての検証のため韓国人日本語学習者について主に述べていくが、日本人韓国語学習者との比較もしていく。

2. 調査方法

今回の調査は大きく二つに分けて行った。まず一つ目は幅広い属性の日本人韓国語学習者と韓国人日本語学習者に対してアンケート調査を行った。年齢、職業、学習レベル等属性を絞らず日本人58名、韓国人56名の計114名に回答してもらい、「どちらも日本語、どちらも韓国語、お互いに母語（日本人学生は日本語で、韓国人学生は韓国語で）、お互いに学習言語（日本人学生は韓国語で、韓国人学生は日本語で）」の4つの会話方法を比較してコミュニケーションを

円滑に進めたいとき、学習に観点を置いたときなどで意識を調査した。

二つ目の方法は談話分析による調査である。こちらは南ソウル大学校日本語学科の学生4名（韓国人日本語学習者）と目白大学韓国語学科の学生4名（日本人韓国語学習者）に参加してもらい、1対1の会話を実際に行ってもらう方式になっている。参加者は全員1999年生まれ、もしくは2000年の早生まれに限定し、年齢による会話時の上下関係を感じさせないようにした。それぞれ学年は4年生で同じだが、韓国人学生の内2名の男性は兵役期間の関係で休学中、または3年生の参加者もいた。各々の語学力については所有資格、学習歴などを聞き中級以上の人に参加してもらった。談話が終了した時点でのアンケートでは自分が話した相手の語学力について問う質問も行い、会話コミュニケーションにおける言語レベルを計った。

談話検証は1人当たり3人ずつと会話してもらい、時間的制約から相手一人に対して3パターンずつテーマと会話方法を変えて談話をしてもらった。

また、談話終了後に「コミュニケーションの円滑性」と「言語学習」に観点を置いたとき4つの会話方法（日本語、韓国語、お互いに母語、お互いに学習言語）のうち、どれが良いと思ったか質問を行い、実際に会話で使用してみたの意識の調査も行った。

3. 韓国・南ソウル大学校における日本語教育

2019年、筆者が大学2年次のとき南ソウル大学校に交換留学生として留学をしていた。その時、日本語学科に所属していたため今回の調査に協力していただけることにもなった。南ソウル大学校は韓国の天安（チョナン）市にキャンパスがある大学である。

南ソウル大学校の日本語学科には日本人の先

生もおり、本格的な日本語学習が行われている。基本的に1年生の時は、日本の歴史を広く学びつつ文化を勉強し、2年生から漢字や小説の読解など基礎的な部分と実践的な部分を同時並行に進め、3年生と4年生の時には本格的に翻訳や集中的な歴史の勉強をする、といった流れになっている。今回談話検証に協力してくれた韓国人の学生は4名全員南ソウル大学校の日本語学科所属である。

4. アンケートでの調査結果

会話学習のための最適な方法を探るために、まず「あなたが日本人と会話をする時に、【あなた自身】の日本語学習に最適だと思うものはどれですか。《文法や聞き取り、会話など様々な要素を考慮し、あなたなりにお答え下さい》」と質問した。

<韓国人の回答>

- 【韓国語と日本語を自由に混ぜて会話】24名
- 【お互いに母語】0名
- 【お互いに学習言語】13名
- 【お互いに韓国語】0名
- 【お互いに日本語】21名

そして、上の質問と対になるように「あなたが日本人と会話をする時に、【相手】の韓国語学習に最適だと思うものはどれですか。《文法や聞き取り、会話など様々な要素を考慮し、あなたなりにお答え下さい》」という質問を行った。

<韓国人の回答>

- 【韓国語と日本語を自由に混ぜて会話】25名
- 【お互いに母語】1名
- 【お互いに学習言語】14名
- 【お互いに韓国語】18名
- 【お互いに日本語】0名

韓国語と日本語を自由に混ぜて話すのが良いと答えた人は、「経験上、お互いの実力が伸びる」、「韓国語で説明した方が分かりやすいのもあるし日本語で説明した方が違いなどが分かりやすくなるものもあるから」、「お互いに言

語を聞きながら会話することができるため」等の意見があった。

お互いに学習言語（常に日本人学生は韓国語で、韓国人学生は日本語で話す）での会話が良いと答えた人は「お互い勉強してる言葉を話すことで教え合いにもなると思った」、「お互い勉強してる言葉を話すことで教え合いにもなると思った」、「発話しながら、外国語の実力が伸びる気がする」等の意見があった。

お互いに自分の学習言語（回答者が日本人ならどちらの話者も日本語に統一しての会話、韓国人ならどちらも韓国語）で統一しての会話が良いと答えた人は「インプットとアウトプットのどちらも出来るから」、「分からない単語を教える場合を除き、学習言語を最大限多く使用した方が勉強になると考えた」、「発展のためにはたくさん使用して直してあげることがいいと考える」等の意見があった。

そしてお互いに母語で話す方法とお互いに自分の母語で統一して話す（回答者が日本人ならどちらも日本語に統一しての会話、韓国人ならどちらも韓国語に統一しての会話）方法の2種類は学習において最適だと考える人がほとんどいなかった。学習のためには自分にとっての学習言語で統一した会話方法でなければならないと考える人が多いことが伺える。

5. 談話検証での調査結果

5-1 談話検証の概要

本稿では談話検証の参加者を便宜上、韓国人をK1~K4、日本人をJ1~J4と呼ぶ（表1）。今回は韓国人の参加者に着目して述べていく。

表1 参加者の属性

	性別	学習歴	資格	旅行経験
K1	女	7年以上	JLPT N2	約2回
K2	男	5年以上	JLPT N1	約5回
K3	女	4年以上	JLPT N2	約2回
K4	男	4年以上	なし	1回
J1	女	4年以上	TOPIK6級	約10回
J2	女	6年以上	TOPIK6級	約5回
J3	女	3年以上	TOPIK6級 ハン検2級	約10回
J4	女	4年以上	TOPIK6級	約30回

また、「日本語と韓国語を自由に混ぜての会話」という項目も会話方法の選択肢として考えられるが、こちらはコミュニケーションにおいても学習においてもデメリットが他の4つと比較しづらいと考え、談話検証では4つの会話方法で比較・分析した(表2、3)。

表 2 談話で使用したテーマ

	テーマの詳細項目
い	軍隊、徴兵制について
ろ	好きな食べ物、お酒など(お菓子以外)
は	今まで行ったことのある場所、行ってみたい場所
に	好きなアニメ、ゲーム、漫画、ドラマ、映画
ほ	アウトドア派かインドア派
へ	手に入れたい超能力(ドラえものの秘密道具など)
と	好きなお菓子・デザート
ち	日本と韓国、住むならどちらか
り	学生時代(高校生まで)の生活など

表 3 談話ペア組み合わせ

	J1	J2	J3	J4
K1		①日/と	①韓/に	①学/ろ
		②韓/ち	②学/ほ	②母/い
		③学/り	③母/へ	③日/は
K2	①母/い		①日/り	①韓/に
	②日/ろ		②韓/と	②学/ほ
	③韓/は		③学/ち	③母/へ
K3	①学/に	①母/い		①日/と
	②母/ほ	②日/ろ		②韓/ち
	③日/へ	③韓/は		③学/り
K4	①韓/と	①学/に	①母/い	
	②学/ち	②母/ほ	②日/ろ	
	③母/り	③日/へ	③韓/は	

日…どちらも日本語

韓…どちらも韓国語

母…どちらも母語

学…どちらも学習言語

5-2 談話の文字起こし

談話での会話を文字起こし化したものを4つ例として挙げる。文中に出てくる韓国語は括弧で筆者訳を付けた。

〈例1〉 J2・K1③の談話から(テーマ:学生時代お互いに学習言語)

相手が言い間違いをしたが、文脈からその言葉を考察し、学習言語でその言葉の特徴に近い言葉を言い、相手に確認した場面があった。

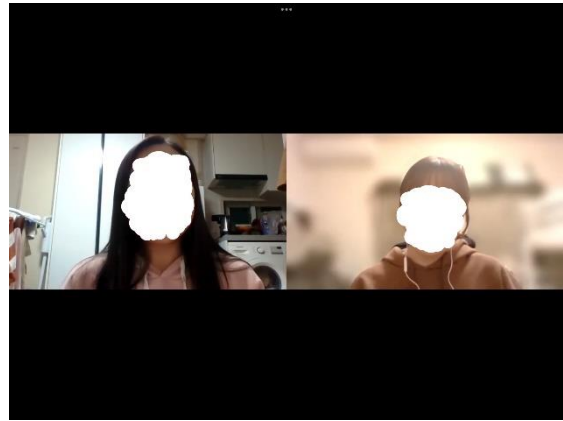


図 1 談話の様子1

K1: 名前、名前〜が、「みのも」だった、実る
 J2: みのも、ふふっ(笑い) 뭔가 사람 일, 이름이 같다(なんか人のな、名前みたい) はははっ(笑い)
 K1: でえ、なんか、意味があ、
 J2: 응(うん)
 K1: 그(その、)なんか けっしつが、実る、その意味じゃん
 J2: 아〜그〜 뭔가 생기는거? (あ〜、なにかできるみたいなの?)
 K1: うん
 J2: 응응응응응응(そうそうそうそう)
 K1: だあら、い、れっしんに、いっしょけんめいしてえ、大学良い結果を
 J2: 実る
 K1: 実る、うふふ(笑い)
 J2: 어어으、좋은 뜻이다(いい意味だね) ふふ

〈例2〉 J2・K4①の談話から(テーマ:映画・ドラマ等 お互いに学習言語)

学習言語で分からない単語や言葉があったとき、すぐにその言葉が伝わらず英語を使用して説明する場面があった。

K4: すごく、おもしろいけどお
J1: 응
K4: なんかあ、ええ～、つつ、なんか、ああ、
これ日本語で、なんだっけ、ああ
J1: っははあ（笑い）、아, 뭘테? (なに?)
K4: あああ、ああ、に、英語で、익스트림?
(extreme?)、익스크림? (excream?)
J1: あああ、어, 뭘지 알았어 (あ、なんて言いたいか分かった)
K4: うん
J1: 우응, 나도 봐야겠다 (へえ、私も見ないと
な)

〈例3〉J3・K4②の談話から（テーマ:食べ物
お互いに日本語）

間違った学習言語（日本語）を使用してしま
うが、相手に正確に伝えるため英語も使用し、
相手は会話の流れから意味を理解し最後に訂正
してあげる場面があった。

K4: え～、감자탕⁽¹⁾ (カムジャタン・韓国料理
の一つ)、감자탕は、なんか、そう見たら、
なんか감자탕のビジュアル見たら、えええ、
これ、ああ、なんか作ること、むずかしかも、
思っていますが、え～、すごく易い
(やすい)ので、はい
J3: う～ん、そんなんだ
K4: わたし、りよ、その、料理が、なんか、下
手ですけど、감자탕は易い、ですから、はい、そんなに、easy、easyと、easyです
J3: 簡単
K4: はい、簡単です
J3: へえ～

〈例4〉J4・K1③の談話から（テーマ:場所 お
互いに日本語）

学習言語で何というか分からず、特徴を少し
ずつ言い相手がそれを当て、伝えることができた
場面があった。日本語の「実家」が韓国語で
は본가（漢字語で本家）となるため。

K1: 私が、부산⁽²⁾にいるので、ここには、ほん、
ほんや?
J4: うん、ほんや?
K1: パパ、お、お父さんと、お母さんが、いる
だから、부산じゃなくて
J4: あ、実家、実家
K1: あ、実家、実家だけど

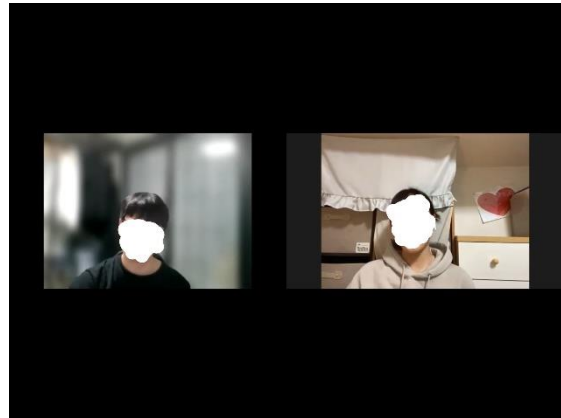


図 2 談話の様子 2

5-3 談話後のアンケート・インタビュー

各談話直後に簡単なアンケートと談話がすべて
終わってからインタビューを参加者たちに行
った。

まず、談話検証が終了した後、お互いに話し
た相手の学習言語レベル（文法や発音など細か
い観点ではなく、コミュニケーションができる
かどうかの5段階評価）について質問をした。韓
国人学生の日本語コミュニケーション力につい
ての結果は、4人全員4もしくは5の評価を受け、
実際に会話する時には問題なく受け答えができ
るレベルであることが分かった。逆に日本人学
生の韓国語コミュニケーション力についての結
果は、4人のうち3人は全て4もしくは5の評価を、
1人は3、4、5の評価を一回ずつ受けていた。こ
のことから日本人学生の韓国語力も会話をする
ときに問題がなかったことが分かった。

韓国人学生に学習に効果的な会話方法に関し
て質問した時、各談話直後はお互いに母語での
会話も学習に効果があると回答してくれた人も
いたが、最後のインタビューではお互いに日本

語で、もしくはお互いに学習言語で会話するという回答の2つのみとなった。お互いに学習言語での会話が学習には良いと回答した人は、実際に自分が発話で練習ができ、また自分の語学力向上だけでなく相手の語学力も同時に上げられるという理由が挙げられた。自分が学習言語で発話する時の不安として、「今自分が話している言葉が間違っていないか不安になる」というものもあった。

お互いに母語で会話する方法は学習に効果がありそうかと質問すると、「あまり効果が無さそう」と正直な意見があった。また、自分の母語に合わせて会話をした時、相手にとっては学習言語であるため相手が間違った表現をした時すぐに直してあげるか迷ったと答えた人もいた。円滑なコミュニケーションとしての最適な会話方法にお互いに母語での会話が選ばれることはあったので学習のみに着目するのではなくコミュニケーションの練習として教育に取り入れることも可能ではないかと筆者は考えた。

一方、日本人学生の中ではお互いに母語で会話することが学習に効果的だと答える人もおり、学習レベルや国民性など他の要素によっても求めるものが違うのではないかと新たな疑問が生まれた。

6. 活動の成果と今後の展望

今回の活動で筆者の仮定とは逆の、学習に着目した時はお互いに学習言語、もしくは自分の学習言語に統一した方が効果的だという意見が

多かった。しかし円滑なコミュニケーションにおいてはお互いに母語での会話が有効だと考える人もいるため、最近の日本語の流行語や、リアルな会話でネイティブスピーカーが使う表現の聞き取りなどの実践的なコミュニケーションの練習など、既存の学校の授業とはまた違った日本語教育として取り入れることが可能ではないかと考えた。また、今回の意識調査が中級以上レベルの日本語学習者や教師にとって参考になるのではないかと考える。時代の移り変わりとともに言語も移り変わり、学習者もその時代にあった言語を学ぶ。そしておそらくほとんどの学習者の最終目標はコミュニケーションをとることであろう。その最終目標を達成するためこれからも新しい学習法が生まれる可能性もあり、その一つとして今回の学習者同士の母語での会話が参考になればと考える。

談話分析では異言語話者同士の会話だけでなく韓国人同士、日本人同士での会話も行い、異母語話者と母語話者同士では会話にどのような差が生まれるか、そこから学習に必要な要素の分析を行うことが今後の課題として挙げられる。この活動では韓国人における日本語学習者の意識を調査したが、母語同士の会話を教育に組み込むとしたらどのような方法が良いか、また別の国・地域の日本語学習者においても母語同士での会話についてどのような意識を持っているか、これからの日本語教育に新たな視点からアプローチしていきたいと考える。

注

- (1)カムジャタン、韓国料理
- (2)プサン/釜山、韓国の地名

参考文献

- (1) 小田切由香子（1994）「異文化接触状況における話題転換の動機および方法」『日本語教育方法研究会誌』1-2, pp.30-31
- (2) 小田切由香子（1997）「異言語文化間・男女間コミュニケーションにおける性差：会話開始における話題転換上の特徴」『横浜国立大学留学生センター紀要』pp.42-53
- (3) 木村護郎クリストフ（2021）『異言語間コミュニケーションの方法 媒介言語をめぐる議論と実際』大修館書店

- (4) 津田早苗（1997）『談話分析と文化比較』リーベル出版
- (5) 林宅男編（2008）『談話分析のアプローチ：理論と実践』研究社
- (6) 一二三朋子（1999）「非母語話者との会話における母語話者の言語面と意識面との特徴及び両者の関連—日本語ボランティア教師の場合—」『教育心理学研究』47-4, pp.490-500
- (7) サウクエン・ファン（1999）「非母語話者同士の日本語会話における言語問題」『社会言語化学』2-1, pp.37-48
- (8) 泉子・K・メイナード（1997）『談話分析の可能性：理論・方法・日本語の表現性』くろしお出版
- (9) 시부야 마사에（2018）「日本語母語話者と韓国人日本語学習者の初対面会話における評価と印象—韓国人日本語学習者を中心に—」『일어일문학연구』107-1, pp.167-192